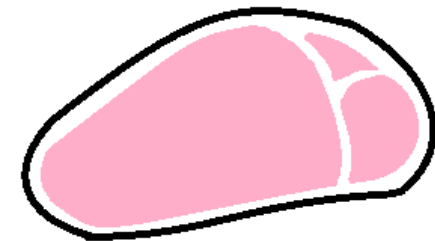


養豚場における防疫対策

家畜改良センター茨城牧場

畜産と病気

- 家畜を飼養する上で病気の発生を防ぐことは安全な畜産物を生産する観点や、経営の面から重要です。
- 病気が発生すると生産性の低下・生産物の出荷停止など、たくさんの経費が発生します。
- 発生した病気を除去するためにも大きな手間とコストが必要となります。



養豚と病気

- 特に豚は病気などのストレスに弱いことや、豚同士が鼻をくっつけることで簡単に感染してしまうような病気が多いため、病気を予防する対策が重要になります。
- ここでは病気の発生を防ぐ【防疫対策】について現場で行った具体的な工事例も含めご紹介いたします。

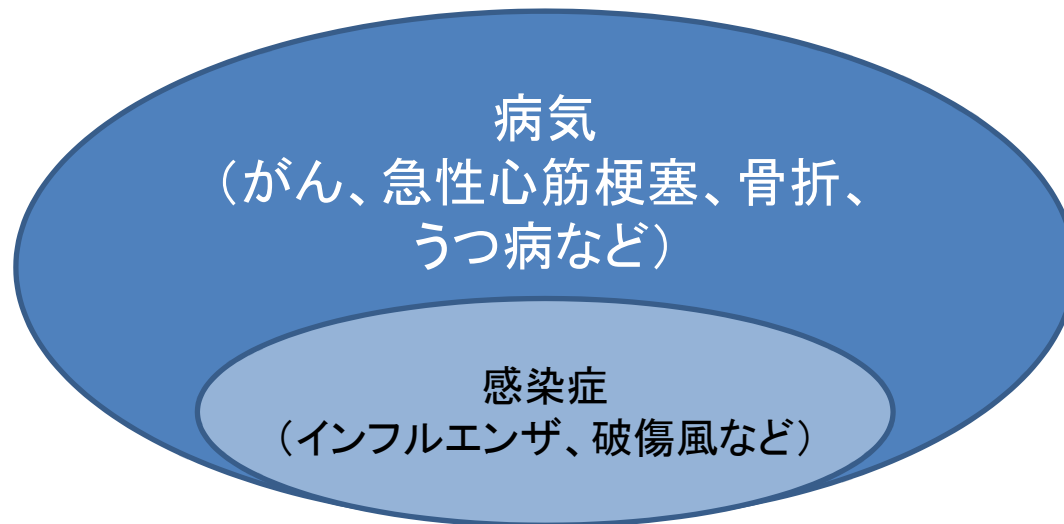


病気と感染症の違い

病 気：生体がその形態や生理・精神機能に障害を起こし、苦痛や不快感を伴い、健康な日常生活を営めない状態。

感染症：病原体が生体内に侵入・増殖して引き起こす病気。インフルエンザ・赤痢(せきり)・マラリアなど伝染性のものと、破傷風・肺炎など非伝染性のものがある。

(デジタル大辞泉より引用)



つまり...

- ・感染症は病気の種類。
- ・病原体が生体内に侵入・増殖して起こる。

以降のページでは、養豚場で感染症を防ぐ方法等についてご紹介します。

感染の3要素

- 感染症が成立するためには3つの条件があります。
- このうち1つだけでも排除することができれば感染症の発症を防ぐことができます。

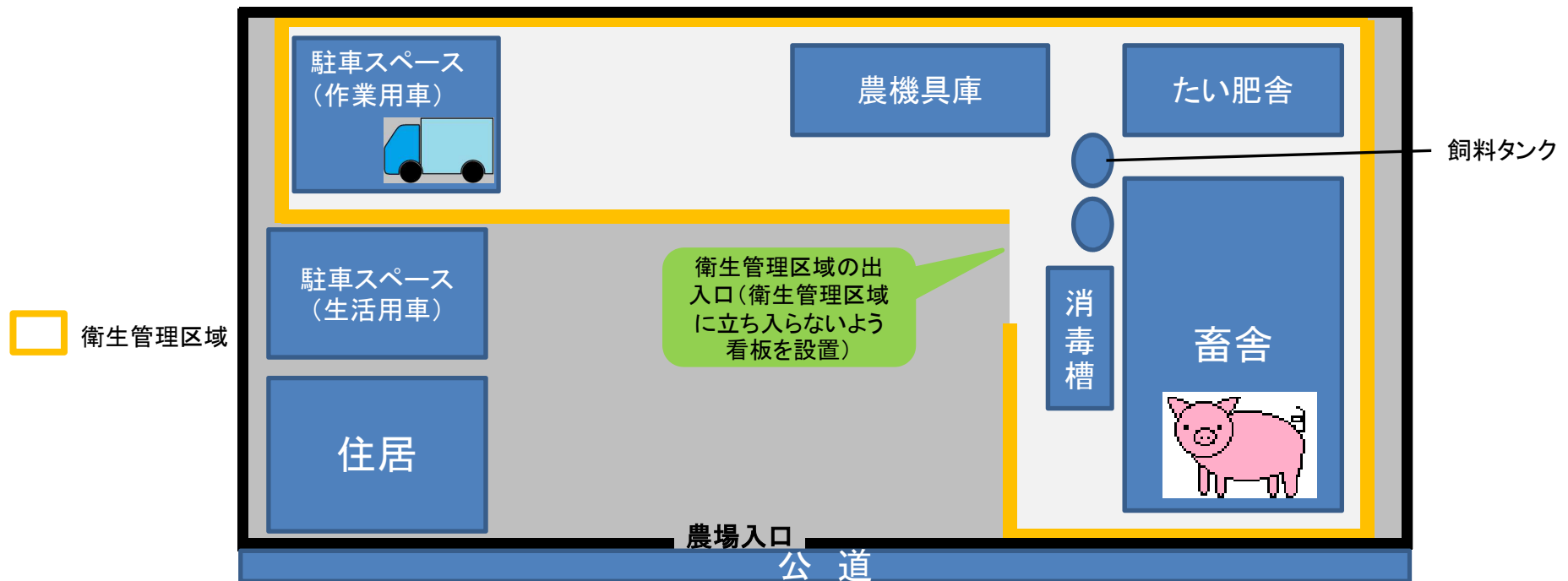


病原体の感染経路に対する防疫対策

- ① 家畜を飼養している農場の敷地のうち、衛生的な管理が必要となる区域に、必要のない人や車両を立ち入らせないようにすることで、病原体が持ち込まれることを防ぐ。
→エリア分けによる対策。
- ② やむを得ず衛生的な管理が必要となる区域に立ち入る人、物品及び車両に付着して病原体が持ち込まれることを防ぐ。
→消毒等による対策。

衛生管理区域の設定

「飼養衛生管理基準」では、農場の敷地を衛生的な管理が必要となる区域（衛生管理区域）とそれ以外の区域とに分け、両区域の境界が分かるよう柵やロープ等で区別することとされています。



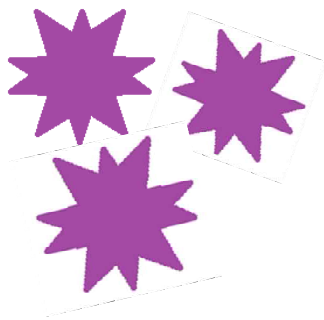
当場におけるエリア分け

当場でも農場全体を飼育エリア、サブエリア及び農場外エリアの3つに分け、各エリアの境界に設置されたフェンスにより各エリアを区分するとともに、各エリアに入るための衛生条件を細かく設定しています。



消毒等の重要性

- 豚に触れる人や物品が病原体で汚染されている場合、これらを介して豚に病原体が伝播されます。
- このような事態を防ぐためには消毒等によって豚舎への病原体の持ち込みを防ぐことが大切です。



当社における消毒等の具体的な方法

人

- 豚の飼育エリアに入る前のシャワー浴。
- 専用服・長靴への更衣・更靴。
- 手指のアルコール消毒。
- 豚舎入口での踏込消毒。

**物品に付着した病原体を
消毒などによって減らす。**

物品・車両

- 紫外線灯や各種消毒薬による消毒。
- 車両については特にタイヤ周辺の消毒。

防疫対策まとめ

- 人
 1. 必要のない人を農場内や衛生管理区域内に立ち入らせない。
 2. 農場内や衛生管理区域内に立ち入る人は、専用服・長靴への更衣・更靴及び消毒等を実施する。
- 物品・車両
 1. 必要のない物品や車両を、農場内や衛生管理区域内に持ち込まない。
 2. 必要な物品や車両は消毒を徹底する。